

令和7年度使用
中学校用教科用図書
採択参考資料

英 語

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	英語 002-72・002-82・002-92
9 開隆堂	英語 009-72・009-82・009-92
15 三省堂	英語 015-72・015-82・015-92
17 教出	英語 017-72・017-82・017-92
38 光村	英語 038-72・038-82・038-92
61 啓林館	英語 061-72・061-82・061-92

英 語

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 9 開隆堂 15 三省堂 17 教出 38 光村 61 啓林館

2 調査研究の観点

- (1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達に応じて配慮され、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 文字や記号等の表記が適切であり、資料が学習内容の理解に役立ち、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

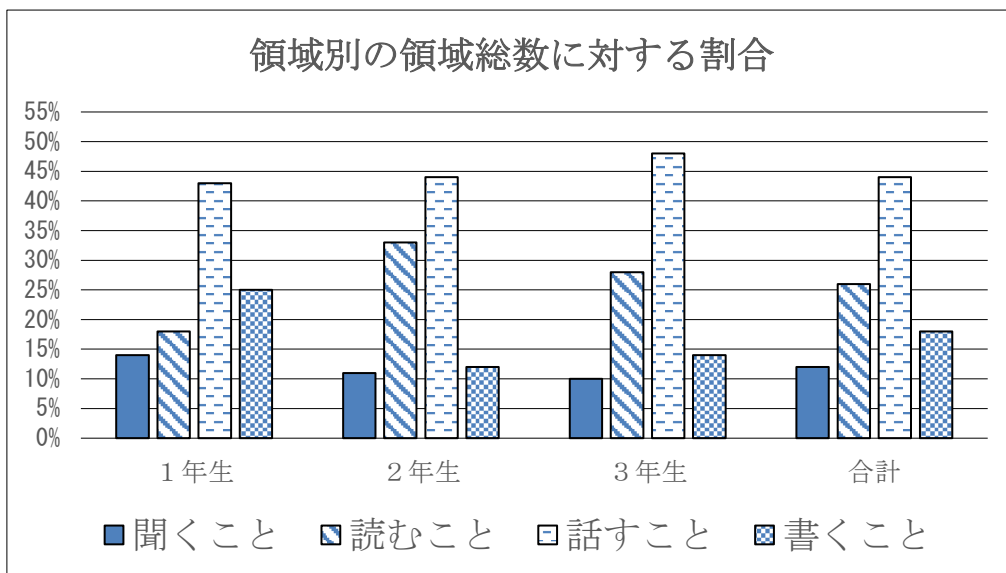
- (1) 概括的な調査研究…………… 観点 (1) (4)
 - ① 領域別の構成
 - ② 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成
 - ③ デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること…………… 観点(1)
- (3) 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること…………… 観点(1) (2) (3)
- (4) 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること…………… 観点 (2) (3)
- (5) 全体的な表記・表現の工夫に関すること…………… 観点 (1) (2) (4)
- (6) 学習者用デジタル教科書に関すること…………… 観点 (1) (2) (4)

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (A4判)	14%	18%	43% やり取り 24% 発表 19%	25%	179	40	Word List / Word Room / 英語の音と文字 / フォント(書体)の種類 / 手紙やカードの書き方 / CAN-DO リスト他
2年 (A4判)	11%	33%	44% やり取り 27% 発表 17%	12%	150	47	Word List / Word Room / 形容詞・副詞比較変化表 / 不規則動詞変化表 / Further Reading / CAN-DO リスト他
3年 (A4判)	10%	28%	48% やり取り 30% 発表 18%	14%	136	57	Word List / Word Room / 形容詞・副詞比較変化表 / 不規則動詞変化表 / Further Reading / CAN-DO リスト他
合計	12%	26%	44% やり取り 26% 発表 18%	18%	465	144	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別のアイコンの総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	8	20	23	19
2年	7	19	24	7
3年	4	18	19	6
全 体	19	57	66	32

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

1年	2年	3年	合計
96	92	88	276

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「New Words」として示されており、第1学年では「小学校の単語」が掲載されている。
- 全ての学年において、新出文法を扱う「Key Sentence」が設定されている。
- 全ての学年において、「Grammar for Communication」に文法項目のまとめが掲載されている。
- 全ての学年において、単元の「Part」で扱う文法項目を用いて表現活動をする「Practice」と「Activity」が設定されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、各単元の始めの「Preview」では、新出文法や表現が実際に使用される目的や場面、状況が示されている。
- 第2、3学年において、「Read and Think」では、「Before You Read」で場面を把握し、その後、内容理解から自己表現へとつなげる「Round1～3」が設定されている。
- 全ての学年において、単元内で学習した内容について、話したり、書いたりする言語活動「Unit Activity」が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Stage Activity」が設定されている。
- 全ての学年において、単元の始めに「GOAL」が示され、終わりには、目標が達成できたかを振り返る「CHECK」が設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Real Life English」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、主体的な学びにつなげられるように「学び方コーナー」が設定されている。
- 第1学年において国語、第2学年では技術、社会、第3学年では国語、理科、美術、社会の学習内容と関連のあるコーナー「Learning～in English」が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

- 巻末には、教科書内で学習した語を掲載した「Word List」があり、「小学校の単語」にはマークがついている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動のアイコンが示されている。
- 巻頭の「学習の見通しを立てよう」で活動目標が示されており、巻末に「CAN-DO リスト」が掲載されている。
- 「Small Talk 即興で伝え合おう」では、「Expression List」が掲載されている。
- 各「Stage」の最後に、それぞれの目標を達成できたか、確認するための「CAN DO CHECK」が設定されている。
- 単元の題材に関する「Column」が掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

6 学習者用デジタル教科書に関すること

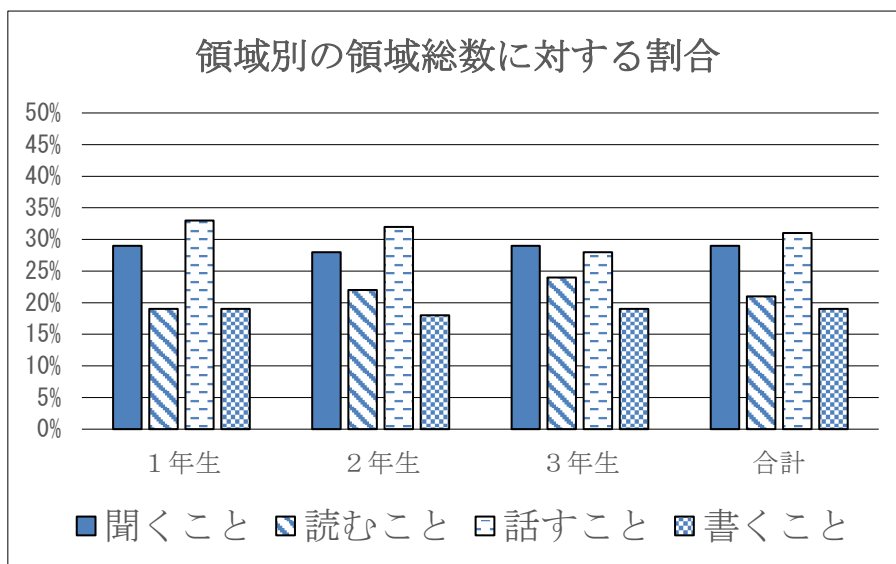
- 学習者用デジタル教科書においては、教科書内の全ての本文や新出語句や、文法説明動画などが1つのポータルサイトにまとまっている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (A4判)	29%	19%	33% やり取り 16% 発表 17%	19%	212	43	単語と熟語 / 不規則動詞活用表 / Small Talk 表現集 / 辞書の使い方 / クイック Q&A / CAN-DO リスト他
2年 (AB判)	28%	22%	32% やり取り 16% 発表 16%	18%	211	38	単語と熟語 / 不規則動詞活用表 / Small Talk 表現集 / 形容詞・副詞比較変化表 / CAN-DO リスト他
3年 (AB判)	29%	24%	28% やり取り 12% 発表 16%	19%	180	41	単語と熟語 / 不規則動詞活用表 / Small Talk 表現集 / Small Talk の流れ / Word Web / CAN-DO リスト他
合計	29%	21%	31% やり取り 15% 発表 16%	19%	603	122	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別のアイコンの総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	8	22	22	13
2年	8	21	23	8
3年	8	25	20	8
全 体	24	68	65	29

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

1年	2年	3年	合計
80	70	68	218

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「New Words」として示されており、巻末の「単語と熟語」に「小学校で学んだ単語」が掲載されている。
- 全ての学年において、単元の始めに、新出文法を扱う「Scenes」が設定されている。
- 全ての学年において、「英語早わかり」に文法項目のまとめが掲載されている。
- 全ての学年において、「Scenes」には、単元で扱う文法項目を用いて表現活動をする「Speak」「Write」が設定されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、各単元の「とびら」で「GOALS」が設定され、単元内で学習することが示されている。
- 全ての学年において、単元の題材に関する予備知識を獲得する「Tuning in」が設定されている。
- 全ての学年において、本文の内容を振り返り、自分の言葉で表現する「Review & Retell」と、目的や場面、状況に応じた言語活動をする「Action」が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Our Project」が設定されている。
- 全ての学年において、「Scenes」「Review & Retell」「Action」のページで、単元の目標を達成できたかをチェックする欄が設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Power-Up」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、主体的な学びにつなげられるように「辞書の使い方」や「Small Talkの流れ」等が設定されている。
- 第1学年において教育格差、第2学年において自然科学、第3学年では児童労働、環境問題等、現代的課題を扱う単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

- 巻末には、教科書内で学習した語を掲載した「単語と熟語」があり、「小学校で学んだ単語」にはマークがついている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動のアイコンが示されている。
- 巻頭の「この教科書で学ぶみなさんへ」で教科書の構成が示されており、巻末に「CAN-DOリスト」が掲載されている。
- 全ての単元に、即興的な言語活動を行う「Small Talk」のコーナーが設けられている。
- 「Scenes」では、単元で学習する言語材料の使用場面が「2コマのマンガ形式」で示されている。
- 単元の題材に関する「Information」が掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

6 学習者用デジタル教科書に関すること

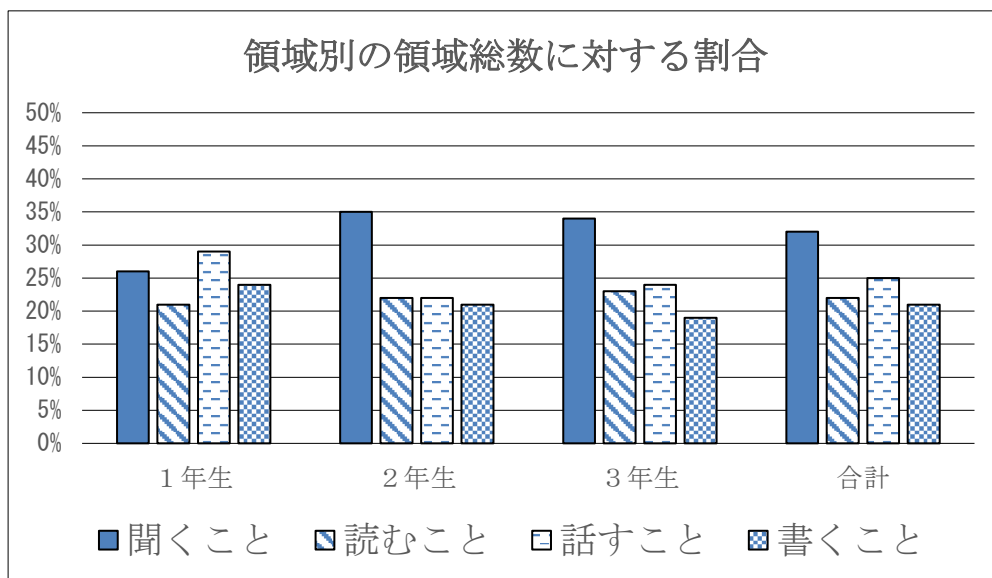
- 学習者用デジタル教科書においては、単元ごとに、新出語句等を練習する「単語アプリ」や、本文、リスニング問題などがまとまっている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	資料・付録	
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		頁数	内容
1年 (A4判)	26%	21%	29% やり取り 20% 発表 9%	24%	160	56	単語の意味 / いろいろな単語 / 基本文のまとめ / Tips for Small Talk / Can-Do リスト他
2年 (A4判)	35%	22%	22% やり取り 13% 発表 9%	21%	156	57	単語の意味 / いろいろな単語 / 基本文のまとめ / Tips for Small Talk / Can-Do リスト他
3年 (A4判)	34%	23%	24% やり取り 16% 発表 8%	19%	145	59	単語の意味 / いろいろな単語 / 基本文のまとめ / Tips for Small Talk / Can-Do リスト他
合計	32%	22%	25% やり取り 17% 発表 8%	21%	461	172	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別のアイコンの総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	9	18	7	14
2年	8	14	30	10
3年	5	16	5	9
全 体	22	48	42	33

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

1年	2年	3年	合計
97	85	79	261

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「New Words」として示されており、第1、2学年では「小学校で学習した語」が掲載されている。
- 全ての学年において、「Part」の「Scene1」で、新出文法を扱う「Check」が設定されている。
- 全ての学年において、「Language Focus」に文法項目のまとめが掲載されている。
- 全ての学年において、「Part」で扱う文法項目を用いて表現活動をする「Exercise」が設定されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、各単元の始めに、それぞれの「Scene」にある場面と「Goal Activity」で行う言語活動が示されており、単元の見通しが示されている。
- 全ての学年において、「Scene2」の最後に「Think about Yourself」があり、聞いたり読んだりしたことに対して、自分の考えを伝え合う言語活動が設定されている。
- 全ての学年において、「Small Talk Plus+」があり、話すこと（やり取り）の言語活動に繰り返し取り組むように「Round」が複数設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Project」が設定されている。
- 全ての学年において、「Goal Activity」「Project」などの活動のページには、目標の振り返りの視点が示されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Goal Activity」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、主体的な学びにつなげられるように「For Self-study」が設定されている。
- 第1学年において防災訓練、第2学年において職場体験、第3学年において修学旅行等、学校における教育活動と関連のある単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

- 巻末には、教科書内で学習した語を掲載した「単語の意味」があり、「小学校で学習した語」にはマークがついている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動のアイコンが示されている。
- 巻頭の「しくみと学び方」で単元の構成が示されており、巻末に「Can-Do リスト」が掲載されている。
- 巻末の「Tips for Small Talk」に、話すこと [やり取り] のすすめ方や表現がまとめられている。
- 表現活動で使用するいろいろな語句が「Word Bank」「Expressions」に掲載されている。
- 単元の題材や学習事項に関する「Notes」が掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

6 学習者用デジタル教科書に関すること

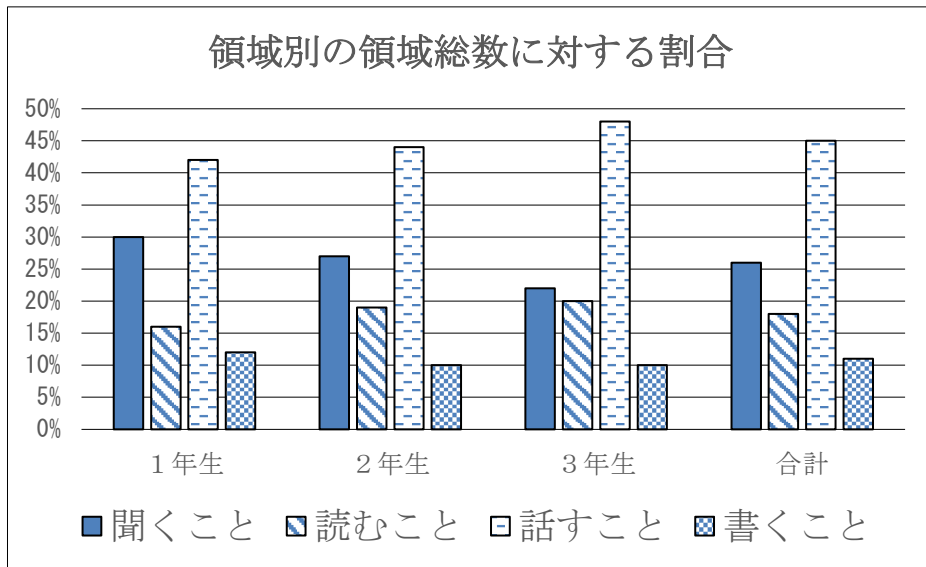
- 学習者用デジタル教科書においては、音声を録音して判定する機能や、題材に関する動画や文法説明動画などの補助教材がある。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (A B判)	30%	16%	42% やり取り 32% 発表 10%	12%	147	40	Word List / 不規則動詞変化表 / 重要 構文復習リスト / Think & Try!活動例 / Can-Do 自己チェックリスト他
2年 (A B判)	27%	19%	44% やり取り 33% 発表 11%	10%	149	47	Word List / 不規則動詞変化表 / 重要 構文復習リスト / Think & Try!活動例 / Can-Do 自己チェックリスト他
3年 (A B判)	22%	20%	48% やり取り 32% 発表 16%	10%	127	71	Word List / 不規則動詞変化表 / 重要 構文復習リスト / Think & Try!活動例 / Can-Do 自己チェックリスト他
合計	26%	18%	45% やり取り 33% 発表 12%	11%	423	150	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別のアイコンの総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	8	25	25	7
2年	6	21	26	10
3年	5	19	12	7
全 体	17	65	63	24

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

1年	2年	3年	合計
73	78	64	215

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「Words & Phrases」として示されており、小学校で学習した単語は、「小学校の発信語」として掲載されている。
- 全ての学年において、新出文法を扱う「Key Sentences」が設定されている。
- 全ての学年において、「Grammar」に文法項目のまとめが掲載されている。
- 全ての学年において、単元の「Part」で扱う文法項目を用いて表現活動をする「Think & Try!」が設定されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、各単元の「扉」では、「内容理解」と「活動」における目標が示されている。
- 全ての学年において、単元の「Part」に本文の概要や要点を問う「Check」あるいは「Reading Point」が設定されている。
- 全ての学年において、「Task」では、本文を要約する文の穴埋め問題と、場面設定がある言語活動が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Project」が設定されている。
- 全ての学年において、単元の終わりには、目標の達成度を確認する「Lessonをふり返ろう」が設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Tips for ~」や「Useful Expressions」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、主体的な学びにつなげられるように「How to Study」が設定されている。
- 第1学年においてSDGs、第2学年においてユニバーサルデザイン等、第3学年において食品ロス等、現代的課題を扱う単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

- 巻末には、教科書内で学習した語を掲載した「Word List」があり、「小学校で学習したとみなした語」にはマークがついている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動のアイコンが示されている。
- 巻頭の「この教科書で英語を学ぶみなさんへ」で教科書の構成が示されており、巻末に「Can-Do 自己チェックリスト」が掲載されている。
- 話すこと（やり取り）などの言語活動を行う際に使う語句が「Activities Plus」の「Questions & Answers」「Word Bank」に掲載されている。
- 表現活動で使用するいろいろな語句が「分野別用語集」に掲載されている。
- 「Project」の題材に関する参考資料が掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

6 学習者用デジタル教科書に関すること

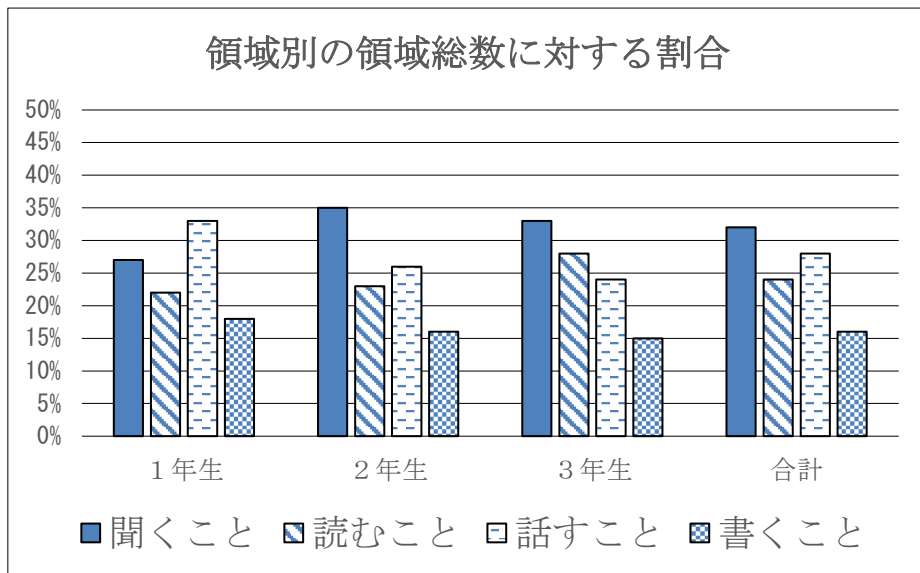
- 学習者用デジタル教科書においては、読み上げた音声を判定しながら、基本文を繰り返し練習する機能がある。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (AB判)	27%	22%	33% やり取り 24% 発表 9%	18%	165	67	Word List / World Tour / 英語の学び 方ガイド / Activity Words / 英語の しくみ / CAN-DO List 他
2年 (AB判)	35%	23%	26% やり取り 19% 発表 7%	16%	185	60	Word List / World Tour / 英語の学び 方ガイド / Activity Words / 英語の しくみ / CAN-DO List 他
3年 (AB判)	33%	28%	24% やり取り 16% 発表 8%	15%	172	87	Word List / World Tour / 英語の学び 方ガイド / Activity Words / 英語の しくみ / CAN-DO List 他
合計	32%	24%	28% やり取り 20% 発表 8%	16%	522	214	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別のアイコンの総数である



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	10	19	15	13
2年	9	22	11	8
3年	3	20	27	6
全 体	22	61	53	27

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

1年	2年	3年	合計
85	82	72	239

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「Words」として示されており、「小学校で習った語」にマークがついている。
- 全ての学年において、新出文法を扱う「基本文」が設定されている。
- 全ての学年において、「Active Grammar」に文法項目のまとめが掲載されている。
- 全ての学年において、単元の「Part」で扱う文法項目を用いて表現活動をする「Speak」「Write」が設定されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、各単元の「扉」には話の内容を予測する「1. 予想する」、話の概要をつかむ「2. 音声を聞く」「3. 映像を見る」が設定されている。
- 全ての学年において、「扉」には単元末の言語活動に関連して、各単元の目標「Goal」が設定されている。
- 全ての学年において、「帯教材」として、各単元で学んだことを自分の言葉で表現する「Story Retelling」が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「You Can Do It!」が設定されている。
- 全ての学年において、「Goal」のページに、巻末の「CAN-DO List」に基づいた振り返りが設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Daily Life」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、主体的な学びにつなげられるように「英語の学び方ガイド」が設定されている。
- 第1学年において道徳教育、第2学年において防災教育、職場体験、第3学年において修学旅行等、学校における教育活動と関連のある単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

- 巻末には、教科書内で学習した語を掲載した「Word List」があり、「小学校で習った語」にはマークがついている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動のアイコンが示されている。
- 巻頭に「この教科書の構成と使い方」が示されており、巻末に「CAN-DO List」が掲載されている。
- 「帯教材」として「Let's Talk!」に、即興での会話のトピックや Small Talk のすすめ方が掲載されている。
- 本文の内容に関して、自分の考えを書く「You're the Writer」が設定されている。
- 世界各国の文化や価値観の違い等について学ぶ「World Tour」コーナーが掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

6 学習者用デジタル教科書に関すること

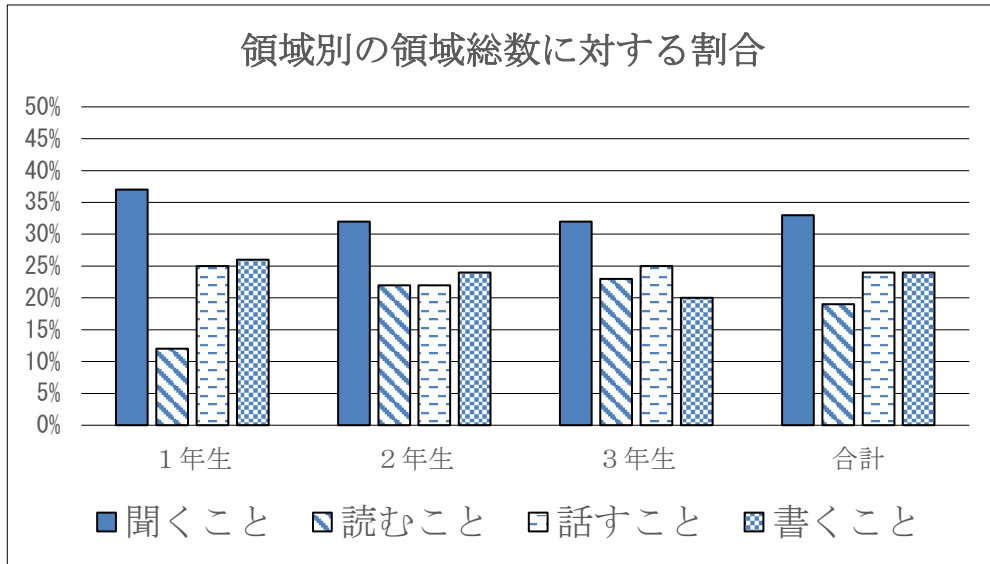
- 学習者用デジタル教科書においては、「きく」モードで、画面上の文や語句を選択すると、直接再生される。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (A4判)	37%	12%	25% やり取り 21% 発表 4%	26%	222	37	Word list / Word Box / 英語の学び方 / Sing a Song / Listening Script / 基本本文のまとめ / CAN-DO List 他
2年 (A4判)	32%	22%	22% やり取り 16% 発表 6%	24%	250	38	Word list / Word Box / 英語の学び方 / Sing a Song / Listening Script / 基本本文のまとめ / CAN-DO List 他
3年 (A4判)	31%	21%	25% やり取り 17% 発表 8%	23%	186	47	Word list / Word Box / 英語の学び方 / Sing a Song / Listening Script / 基本本文のまとめ / CAN-DO List 他
合計	33%	19%	24% やり取り 18% 発表 6%	24%	658	122	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別のアイコンの総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	11	25	13	18
2年	8	26	21	12
3年	2	17	23	7
全 体	21	68	57	37

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

1年	2年	3年	合計
75	74	54	203

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「Words」として示されており、小学校で学習した単語は、「小 Words」として掲載されている。
- 全ての学年において、新出文法を扱う「Target」が設定されている。
- 全ての学年において、「Focus on Form」に文法項目のまとめが掲載されている。
- 全ての学年において、単元の「Part」で扱う文法項目を用いて表現活動をする「Express Yourself」が設定されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、各単元の「とびら」の「Unit Goal」では、単元の受信領域の目標「Input」と発信領域の目標「Output」が示されている。
- 全ての学年において、「とびら」では、リスニング音源があり、概要をつかむための問いが設定されている。
- 全ての学年において、各単元の後半には、「Read/Listen & Think」または「Think & Write/Speak」などの言語活動が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Project」が設定されている。
- 全ての学年において、各単元の「とびら」で示されたそれぞれの目標を振り返る「Check」が設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Let's ~」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、主体的な学びにつなげられるように「英語の学び方」が設定されている。
- 第1学年において部活動、第2学年において防災教育、第3学年において修学旅行、福祉教育等、学校における教育活動と関連のある単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

- 巻末には、教科書内で学習した語を掲載した「Word List」があり、「小学校で聞いたり話したりした語」にはマークがついている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動のアイコンが示されている。
- 巻頭の「この教科書の使い方」で単元の構成が示されており、巻末に「CAN-DO List」が掲載されている。
- 全ての単元において、単元の題材に関する Small Talk を行うための「Enjoy Chatting」が設定されている。
- 表現活動で使用するいろいろな語句が「Word Box」にまとめられている。
- 単元の題材に関する「Notes」が掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

6 学習者用デジタル教科書に関すること

- 学習者用デジタル教科書においては、単元ごとに、新出語句やリスニング教材などのコンテンツがまとまっている。

